

**CT検査:** 健診の CT は全て単純 CT です。精密検査では造影剤を使った造影 CT を施行する場合があります。

頭部CT	脳、副鼻腔、頭蓋骨などを観察します。脳腫瘍、脳血管障害(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血)、外傷による頭蓋内血腫、脳萎縮などを調べます。また、副鼻腔炎など耳鼻科領域の情報も得られます。
胸部CT	肺や縦隔(胸腔を左右に分ける仕切り構造)を観察します。肺がん、肺結核、肺炎、肺気腫、気管支拡張症などの肺病変や縦隔腫瘍などを調べます。
上腹部CT	肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓などを観察します。

**下部消化管検査**

内視鏡検査	肛門から大腸に内視鏡を挿入し、大腸の粘膜を観察して大腸ポリープや腫瘍の状態を調べます。細胞診断のためポリープや腫瘍の組織を採取する場合があります。
-------	---

**乳房検診**

乳房超音波	超音波により乳腺の性状や、腫瘍の有無を調べます。異常がある場合は、組織生検などの精密検査を行うこともあります。
マンモグラフィ	乳房のX線撮影のことで、専用装置を使用して乳房をはさむようにして撮影します。腫瘍の有無、大きさや形、石灰化の有無を調べます。

**婦人科検診**

内診	腔鏡(ちつきょう)を腔内に挿入し腔内部を観察します。また触診にて子宮の硬さ、大きさ、卵巣の腫れの有無などを確認します。
経膣超音波検査	経膣プローブ(棒状の超音波発信機器)を膣の中に挿入し、子宮や卵巣の状態を調べます。内診検査では見つかりにくい小さな所見や、病変などの大きさが詳しく比較できます。 ※検査項目に含まれていない方は オプション検査として追加できます。

**子宮頸がんについて**

子宮頸がんは子宮の入り口(子宮頸部)にできる「がん」です。原因のほとんどはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染であることがわかっています。感染してもほとんどの方は免疫の力で自然消失しますが、中にはHPV感染が持続し子宮頸がんに行進します。

細胞診(LBC法)	当診療所では子宮頸部細胞診検査の一つである「液状化検体細胞診」を採用しています。採取した細胞をブラシごと保存液入り容器に入れるため、採取したすべての細胞を確実に使用することができるため検査の精度が上がります。
HPV(ヒトパピローマウイルス)	細胞診検査で使用した検体で同時に検査を行うことができます。子宮頸部から細胞を採取し、ウイルス感染しているかどうかを調べる検査です。細胞診検査と併用することで子宮頸がんの早期発見ができます。 ※検査項目に含まれていない方はオプション検査として追加できます。

■子宮頸がん検診結果(細胞診のみ)

細胞診	異常なし(NILM)	軽度病変疑い(ASC-US)	軽度病変(LSIL) 高度病変疑い(ASC-H) 高度病変(HSIL) 扁平上皮癌(SCC) 腺癌疑い(AGC) 腺癌(Adenocarcinoma) その他の異常
注意事項	異常なし	精密検査が必要です。かかりつけ医に結果をお伝えください。当院では他院へご紹介させていただきます。	

■子宮頸がん検診結果(細胞診とHPV検査併用)

細胞診	異常なし(NILM)		軽度病変疑い(ASC-US)		軽度病変(LSIL) 高度病変疑い(ASC-H) 高度病変(HSIL) 扁平上皮癌(SCC) 腺癌疑い(AGC) 腺癌(Adenocarcinoma) その他の異常	
HPV	陰性	陽性	陰性	陽性	陰性	陽性
注意事項	異常なし	1年後、必ず検査を受けて経過をみてください。	精密検査が必要です。かかりつけ医に結果をお伝えください。当院では他院へご紹介させていただきます。			